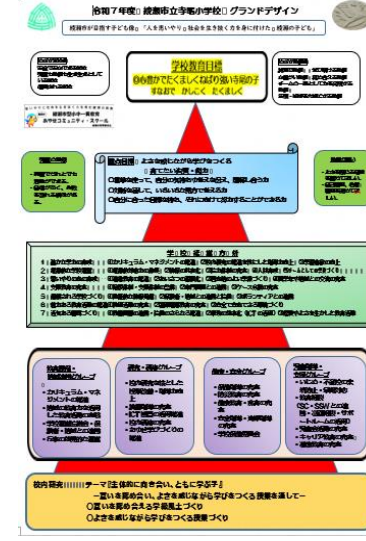


令和7年度 綾瀬市立寺尾小学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	心豊かでたくましくねばり強い寺尾の子	
学校経営方針 (グランドデザイン)		
今年度の重点目標	○言葉を使って、自分の気持ちや考えを伝え、理解し合う力 ○対話を通して、いろいろな見方で考える力 ○自分に合った目標を持ち、それに向けて努力することができる力	
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「ねばり強く学習する子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	児童については肯定的な回答がおよそ9割を占め、児童が進んで学習に取り組む姿勢が少しずつ定着していることがうかがえます。対して保護者については肯定的な回答が8割を切っており、児童の学習の様子や学校での学習の取組をこれまで以上に積極的に発信していく必要を感じています。また、教職員については全教職員が肯定的な回答をしており、校内研究等を通して、教職員一人ひとりが児童の主体性を育む授業づくり、授業改善に取り組んでいることが、学級・学年経営の充実につながってきていると感じています。私たちはこの意識を保ちつつ、児童の生きる力の育成に努めます。
2 教育課程	児童は、学校行事や特別活動に積極的に参加している。	9割5分以上の児童、保護者が「そう思う」「ややそう思う」と回答しています。このことにより、児童自らがめあてをもち学校行事に意欲的に取り組んでいる様子が分かります。またそのような児童の姿を保護者も認めています。学校はこのような児童の姿をさらに向上していけるようにこれからも児童の実態を把握し、本校の児童に合った取組を継続していきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「すなおで思いやりのある子」を育てる指導を積極的に行っている。	「そう思う」「ややそう思う」と回答した児童、保護者が9割を超えています。友だちに対して思いやりの心をもって行動することを大切に思い、それを実行していることがうかがえます。また、すべての教職員が肯定的な回答をしています。これからも児童一人ひとりの理解に努め、自分や友だちのよさや違いを認め合える思いやりのある子の育成に向けて、教職員で協力していきます。
4 児童・生徒指導	児童は、友人や先生との学校生活に満足している。	9割を超える児童が「楽しい」と回答しており、友達や先生との学校生活に満足していると思われます。しかし、「楽しくない」と回答した児童もあり、不安や悩みを抱えていることが推測されます。今後も、一人ひとりの児童を大切にしながら支援体制や職員の協力体制をさらに充実させ、すべての児童が満足して過ごすことのできる学校を目指していきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	7割を超える保護者が肯定的な回答をしています。肯定的な回答、「わからない」という回答が3割弱ありました。引き続きスクールアンケートやすべての教育活動を通したいじめへの予防的取組、いじめの早期発見や発生時の対応、再発防止に教職員が一つになって取り組んでいきます。また今後も懇談会や学校だより等で学校の取組についてお知らせしていきます。
6 保健管理	学校は、「健康でたくましい子」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	保護者については肯定的な回答が9割を占めているのに対し、児童については8割を切る結果となっています。学校の休み時間等の過ごし方については基本的に自由ではありますが、児童の思いを尊重しながらも外遊びや定期的な体を動かすことを促していきたいと考えています。また、運動会等の学校行事を中心に、児童のがんばりが保護者の方に伝わっていることを感じます。各教科等の学習や各種行事での取組をこれまでと同様に大切に、何事にもねばり強く取り組む児童の育成に努めたいと考えています。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	教職員は高い意識をもって取り組んでいることがうかがえます。日時を知らせずに実施する避難訓練や交通安全教室などの「命を守る」学習に力を入れて指導をしてきました。また、月に1回、校舎内外に危険箇所はないかを全職員で点検しています。これからも児童への安全指導の充実と環境整備に、しっかりと取り組んでいきます。
8 支援教育	学校は、児童に応じた支援の工夫を行っている。	個々の児童に応じた支援の工夫をすることについて、教職員は高い意識をもって取り組んでいます。これからも、児童指導・支援グループを中心に職員で情報を共有し、必要に応じて様々な方と連携を図りながら、児童の実態や課題を把握し、個に応じた支援体制の充実に努めていきます。
9 組織運営	校長を中心としたグランドデザインに則った運営組織になっている。	学年会議、グループ会議、企画会議、カリキュラム・マネジメント会議、学年代表者会議を定期的に行い、円滑な学校運営に努めました。各グループが担当する行事や取組を計画する際には児童に身に付けさせたい資質・能力を意識し、全職員が共通理解のもと実施できるよう協議しています。また、カリキュラム・マネジメント会議では、学期ごとの反省をもとに学校教育目標の具現化や取組の改善を図っています。今後も、教職員一人ひとりが責任と自覚をもち、児童のために学校運営を行っていきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	学習指導要領の内容や児童の実態をしっかりと把握し、それらに基づく指導の在り方について研究・研修を重ねてきました。今年度も、横浜国立大学池田敏和教授をお招きし、算数科を中心に教員の授業力向上を図り、児童が主体的に学ぶことができる授業づくりについて理解を深めました。算数科はもちろんのこと、他教科においても授業改善ができるよう、今後も学習指導の充実を図る研修を計画的に実施していきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	設問8に対する対応と同様、これからも教職員が一つになり、学校生活の中で一人ひとりを大切にしたい指導を行っています。また、学校だよりや学年だより、懇談会等を通して、よりよい児童の成長に向けた学校の取組をお伝えするよう引き続き努めていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	9割以上の保護者が「そう思う」「ややそう思う」と回答しており、これは昨年度と同等の結果となっています。学校だよりや学年だより等の各種おたより、懇談会や個別面談等では学校や家庭での児童の様子を共有し、連携を図っています。また、学校運営協議会や地域ボランティアの方々とはこれまで築いてきたつながりを大切に、児童の教育活動がより豊かになるよう、連携をしていきます。
【学校運営協議会からの意見及び改善策】 ・児童は文章を読み込んで発信していく力が苦手としているので授業の振り返りをこれからも推奨していく。 ・学校目標として掲げられている「粘り強さ」に関しては学校では粘り強く取り組んでいるが、家庭では誘惑も多いので粘り強さが見えづらいところがあるのかも知れない。 ・いじめは学校として断固早期発見・未然防止に取り組んでいるが、保護者に具体策が伝わりにくい。スクールアンケートの質問内容の周知できるようにしてよいのではないかと。		